

宮城県立聴覚支援学校 情報教育部
(MIYAGI School for Deaf) + (J)**MSDJ 通心** 2025.1.27

なんでも情報誌!

文責：大槻浩義



テレビも案外役に立つ!!

固定観念と想像力

生成AIはどこまでできるの?

昨年夏、特別支援教育に関する講義を大学で受講する機会があり、その中で「テレビも案外役に立つ」という思いが自分の中にも生まれたのですが、最近のキー局の話題を目にすると、そのような思いも逆戻りしてしまいそうで残念でなりません。



「養護学校が義務化」された1979年(昭和54年)。それから1981年(昭和56年)が国際障害者年となり、その後平成になってから文科省が公表した学習障害の定義を皮切りに2~3年の間隔を経て法整備が整い現代に至っていますが、それぞれの時代に制作されたテレビドラマが、特殊教育をテーマにした内容であることを講義の中で知って、先のような感想を持つようになりました。それと同時に、1970年代にNHK教育テレビが放送した「肢体不自由の少女と医師の取り組み」のドキュメンタリー番組の記憶が蘇りました。

その内容は、医師が文字ボードを使った指さしを考案し、これまで見てきた少女の姿とは全く違った彼女の青春時代の心情を明らかにするとともに、障害者への理解という社会問題の提



起だったと記憶しています。視聴した当時、常識とか固定観念に捕らわれた考え方の危うさや、課題と向き合うときの態度が問われているのかと感じていましたが、夏の講義を受講し、そのような思いを再確認することができました。

本校においても生成AIによる授業が展開されていますが、生成AIの特性をよく理解した上で安全に活用することが求められています。導入のはじめには、文科省等が配信しているガイドラインや動画を視聴して理解を深めた上で進める必要があります。

現時点の「生成AI」の能力を鑑みると、「テキスト生成」「画像生成」「動画生成」等とこれまでに無かった夢のようなツールと言えますが、データを基にした最適値は導き出せても、人間のような合理的でない感情を基にした判断は苦手のようです。

最終的な判断として、人間の想像性が問われているのかも知れません。

■生成AI 使ってみました!!

先の文章の枠の部分を、GoogleWorkspace生成AIアプリ「Gemini」を使って「ようやくしてください」で実行してみました。すると・・・。

読解と考察：提示された文章について

■文章の要約

提示された文章は、特殊教育、特に学習障害に関する日本の歴史的な変遷と、それがテレビドラマにどのように反映されてきたかについて述べています。

【養護学校の義務化】

1979年、養護学校が義務化され、特殊教育への関心が高まりました。

【国際障害者年と学習障害の定義】

1981年の国際障害者年を機に、文部省が学習障害の定義を公表し、その後、関連する法整備が進みました。

【テレビドラマの影響】

各時代のテレビドラマが、特殊教育をテーマに取り上げ、視聴者に影響を与えてきたという点に注目しています。特に、1970年代のNHK教育テレビで放送された「肢体不自由の少女と医師の取り組み」というドキュメンタリー番組が印象に残っている、と述べています。

■考察と深掘り

この文章から、以下の点が読み取れます。

【社会の変化と教育】

社会的な関心の高まりが、教育制度や法律の整備に繋がっていること。

【メディアの役割】

テレビドラマのようなメディアが、社会問題に対する人々の意識を高める上で重要な役割を果たしていること。

【個人的な記憶】

特定の番組が、個人の記憶に深く残ることで、そのテーマに対する関心を長期的に維持させることがあること。

■さらに考えられる点

【ドラマの内容】 省略

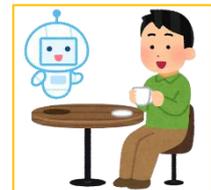
【視聴者への影響】 省略

【現代の状況】 省略

【国際的な視点】

日本の特殊教育の歴史と比較して、他の国の状況を考察することで、日本の特殊教育の現状をより客観的に評価することができます。

以下省略



いかがでしょうか。当の本人も気づいていないようなことを考察として提示されました。

恐るべし・・・ これなら使えそうですね!!

「学校風景」

